

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年7月6日

【評価実施概要】

事業所番号	4074500200
法人名	社会福祉法人 南十字福祉会
事業所名	グループホーム福岡
所在地 (電話番号)	福岡市上西郷738 (電話) 0940-34-3303
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成 20年 5月 10日

【情報提供票より】(平成19年11月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 11年 10月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	18 人
利用定員数計	18 人
常勤	18人, 非常勤 0人, 常勤換算 16.9人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,100 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	<input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	<input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	380 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年11月14日現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.3 歳	最低	74 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮城病院、岩橋歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園地帯の高台に位置し、周りは緑が多く、大変落ち着いた雰囲気である。すぐ傍にはホームの畑があり、畑作りの好きな利用者は、職員と共に畑に出て行き、野菜作りを楽しんでいる。道路を挟んだ向かいにある系列の特別養護老人ホームや老人保健施設等と共同で夏祭り等が行なわれており、地域の人たちが参加するなかで交流が行われている。建物は平屋で共有部分は贅沢なほどゆったりとしている。利用者は気の合う仲間と広々とした広縁のソファに腰掛け、話に花を咲かせたり、職員と話したり、あるいは一人でパズルを楽しんだり、思いのまま過ごしていて、ゆっくりとした時の流れがある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の結果は一部の職員しか把握が出来ておらず、具体的な改善策が見えてこない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は一部の職員のみで行なわれ、自己評価、外部評価を行なう意義が全職員に理解されていない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議が平成19年度は平成20年1月に1度行なわれ、区長代表、民生委員、高齢福祉課係長、理事1名、管理者の参加のもと、グループホームからは、職員体制、事業の目的、運営方針、入居者の状況等の報告がなされた。参加者からは1ヶ月の利用料、入所の条件等の質問があった。また、その時、評価の報告は行なったが、取り組み状況等について報告や話し合い等は行なわれていない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理は家族の面会時に報告している。変化があった時はその都度電話で報告をしている。運営への反映については意見箱を設置しているが、入っていた事は今までにない。何でも話していただける雰囲気作りを心がけている。苦情相談窓口は重要事項説明書に記載されている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	敬老会の時には地域の老人会の方に声をかけ参加をして頂けるようになった。併設事業所と合同で行なわれる夏祭りには、地区住民や役員を招待している。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者主体の理念は作られているが、平成18年度以前の理念がそのまま引き継がれており、地域密着型サービスとしての見直しが行われていない。	○	地域のなかでその人らしく生活することを支えるケアを具体的にイメージし、地域との関係性を重視し、地域密着型サービスとしての役割を目指した理念に作り変えていく事が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関に貼られているが、共有するまでには至っていない。	○	管理者は理念をしっかりと身につけており、理念に沿ったケアが行われるよう職員に、その都度声かけを行っている。今一度、職員全員が理念を共有できるように、今後の取り組みを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老会の時には地域の老人会の方に声をかけ参加をして頂けるようになった。併設事業所と合同で行なわれる夏祭りには、地区住民や役員を招待している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は一部の正職員のみで行なわれ、自己評価、外部評価を行なう意義が全職員に理解されていない。前回の評価の結果も一部の職員しか把握が出来ておらず、具体的な改善策が見えてこない。	○	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組むことが望まれる。また外部評価の結果を踏まえ、改善計画を作成し取り組んで欲しい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が平成19年度は平成20年1月に1度行なわれ、区長代理、民生委員、高齢福祉課係長、理事1名、管理者の参加のもと、職員体制、事業の目的、運営方針、入居者の状況等の報告がなされた。その時、1ヶ月の利用料、入所の条件についての質問があった。評価の報告は行なったが、取り組み状況等について報告や話し合い等は行なわれていない。	○	運営推進会議は2ヶ月に1度は行い、家族代表、利用者代表を含め、地域住民や行政の職員等、幅広い立場の人が参加する会議としてメンバーから率直な意見を引き出し、改善に向けた具体的な取り組みにつなげて欲しい。また、外部評価で明らかになった課題について会議で報告し、意見をもらう取り組みが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに市の職員が参加される事により、気軽に相談が出来るようになった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在1名の方が成年後見制度を利用されている。外部研修に職員が参加し伝達研修を行い、必要な人には活用できるように支援している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや、健康状態、金銭管理は、家族の面会時に報告をしている。変化があった時は、その都度電話で報告をしている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、入っていた事は今までにない。何でも話していただける雰囲気作りを心がけている。苦情相談窓口は重要事項説明書に記載されている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は極力行なわないようにしている。離職があった時は新任者配置後に説明を行なっている。離職時には、有給休暇の消化やその他の理由で引継ぎが十分に取れていない。	○	利用者や家族の不安を少しでも少なくするため、引継ぎの工夫や、報告の時期、方法等の工夫が望まれる。
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたって性別や年齢等を理由に採用対象から排除していない。職員の休みは取り易く、資格取得のための研修や子供の学校行事等、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	会議の時に介護のあり方や、言葉遣いについて話している。外部研修を受け伝達研修を行なっている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加や、資格取得の為の研修参加希望者は、研修を受けやすいように日程調整をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は管理者のみが行なっている。	○	管理者のみの交流に留まらず、職員も他グループホームへの見学や相互研修会等に参加する機会を持ち、事業所外の意見や経験をケアに活かしていく工夫が望まれる。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	空気が出れば直ぐ入所になるため、馴染みながらのサービスの利用にはなっていない。	○	サービス利用前にグループホームの雰囲気に慣れていただくため、遊びに来て頂いたり、職員が訪問したりして、馴染みの関係作りをすることが望まれる。やむを得ない場合は、家族や今まで関わりのあった方にグループホームに遊びに来ていただく等の協力を得るなど、徐々に慣れて頂く工夫が望まれる。
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を介護されるだけの立場におかず、一緒に過ごしながら、喜怒哀楽を共にし、日常生活の中から、洗濯物のたたみ方や、野菜の切り方等を学んだり、支えあったりという関係を築いている。		
1.一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの訴えや希望を聞き、要望に添えるよう努めている。コミュニケーションの困難な方は、日常生活の中で声掛けをしながら本人の嗜好を把握しようと努めている。また、家族からの情報も参考にしている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	2ユニットになっているため、各ユニットの特徴が出ている。ユニットによっては月に1度のミーティングがあり、職員全員の意見が反映された介護計画となっている。一方では、カンファレンス後にケアプラン計画作成担当者が介護計画書を作成し、職員に渡されているが、介護計画書が未完成の状態になっている。	○	職員全員の意見を取り入れたケアプランを作成し、介護計画書には長期・短期目標の期間を書き入れ、順序良く期間毎にファイリングされることが望まれる。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画期間内においての状態急変時には、直ちに職員間でカンファレンスが行われ、適切なケアにあたっている。カンファレンスの記録はあるが、見直し後の介護計画書が作成されていない。	○	しっかりと見直しがされ、適切なケアが行われているのでその経過記録として介護計画書の作成が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や友人の訪問があった時には、事前に連絡があれば同じものを食べていただけるよう食事の提供をしている。また、希望があれば家族の宿泊準備も出来ている。通院の際、家族が付き添い出来ない場合は通院サービスをし、家族へ報告をしている。今のところ希望者はいないが、希望があれば、お墓参りの支援等も考えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	遠距離等の理由でどうしても近くの協力医に変わりたいとの申し出がある場合は、かかりつけ医の変更をしているが、出来るだけ本人の安心のために長年行きつたかかりつけ医の継続を支援している。また、週に2回、母体のナースングケアからの回診を受けている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今後、職員間での勉強会が必要と考えているが、現在では看取りまでケアを行なう方針はなく、利用者・家族には契約時にその旨説明している。重度化や終末期については医療機関・併設の施設への紹介等をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員一人ひとりが、利用者に対して人生の先輩という意識を持っており、誇りやプライバシーを損なうことのないよう言葉遣いや対応に気をつけている。また、個人情報となるカルテ等の書類は訪問客の目につかない所に保管しており、取り扱いに注意している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	週に2回ショッピングの日があり、利用者と職員が一緒に買い物に出かけているが、希望があればその日以外でも対応している。トランプ・散歩・畑仕事・話し相手になるなど利用者一人ひとりの希望や嗜好に合わせ本人のペースにそって支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	2ユニットになっているため、各ユニットの特徴が出て、両ユニットとも調理・配膳は職員が行っているが、もやしの根切りやつくしのはかま取り等は利用者と一緒にしている。食事は職員も一緒に同じものを食べている。一方のユニットでは会話をしながらアットホームな雰囲気の中で食事がされているが、もう一方では黙々と食べ、下膳されている。また、一部介助の必要な利用者には声掛けや介助がされているが、会話はあまり見られない。	○	ユニットごとのそれぞれの特徴を大切にしながら、食事を楽めるような家庭的な暖かい雰囲気づくりを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に月・水・金曜日の午後を入浴日としているが、利用者の体調や希望に応じていつでも入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事の好きな利用者がおられ、朝起きると一番に畑を見に行かれる。今は茄子・トマト・キュウリ・おくら等が植えてあり、職員共々とても楽しみにしている。折り紙やパズル・散歩等本人ペースで楽しんでもらっている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	いつでも希望に応じて外出できるようになっており、職員が後からそつついて行ったり、偶然を装い一緒に出かけたりとさりげなく支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関・窓・全居室とも一切鍵を掛けておらず、開放的なケアを心がけている。食堂から玄関が見えない構造となっているため、モニターとチャイムで人の出入りが確認できるようになっている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	平成18年に1回、利用者を含めた避難訓練が行なわれているが、平成19年には職員に対しての救命研修のみになっている。各職員にマニュアルを渡しているが、職員全員の認識に至っていない。	○	災害時、瞬時に適切な行動がとれるよう電話の横にマニュアルを掲示するなど望まれる。また、消防署に来ていただいたり、利用者が参加したり、夜間想定したり等の避難訓練を行うことが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に1回、体重測定を行なっている。業務日誌にて体調や食事・水分摂取量を記録し状態を把握している。必要に応じて食事を個人対応するときもある。	○	業務日誌での管理では把握しにくい部分もあり、状態の変化が一目でわかりやすいように食事・水分摂取量チェック表のようなもので確認できるような工夫が望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や、利用者が作られた折り紙のあじさいの花などが飾られ、暖かい雰囲気となっている。食堂・リビングは広いスペースを利用し、一人掛けや二人掛けのソファが程よい間隔で用意され、それぞれの思いで過ごせるようになっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>トイレ・エアコン・ベッド・ソファがそれぞれの居室に備え付けになっている。その他の家具や布団等は使い慣れた物を持ち込み自由になっており、本人が居心地良く過ごせるよう工夫されている。</p>		